

Recycle Report

2019年2月

一般社団法人日本消火器工業会
株式会社消火器リサイクル推進センター



日本消火器工業会のキャラクター

廃消火器は、
こんな流で
リサイクルされています。

リサイクル工場見学レポート

2017年度消火器リサイクルシステム

年次報告



消火薬剤は貴重な資源であるリン鉱石を使用しています。写真は、消火薬剤の抜き取り作業の様子です。

廃消火器は2つの窓口で回収しています。

廃
消
火
器
回
収
窓
口

特定窓口

全国 5,068 箇所
2018年4月現在

「引き取り（訪問）」と「持ち込み」に対応。

特定窓口とは消火器ユーザーから廃消火器を廃棄物として引き取る窓口です。消火器工業会が廃消火器の収集・運搬・保管を委託した、広域認定範囲内の事業者窓口です。

指定引取場所

全国 208 箇所
2018年4月現在

「持ち込み」に対応。

指定引取場所とは廃消火器の引き取り窓口です。消火器ユーザーや特定窓口が廃消火器を持ち込む施設で、消火器工業会が指定した消火器メーカー営業所、廃棄物処理業者等です。

お近くの回収窓口は、下記の方法で探すことができます。



PCから

消火器リサイクル窓口

検索

www.ferpc.jp/accept/



スマホで検索



お電話から

(消火器リサイクル推進センター / リサイクル検索窓口)

03-5829-6773

(受付時間 9:00~17:00 ただし土日祝日、
休日および 12:00~13:00 を除く)

ゆうパックでの郵送による「回収」も行っています。



ゆうパック専用コールセンター

0120-822-306

(郵送のみのお問い合わせとなります。)

ゆうパックによる回収は、電話での事前申し込みが必要です。

全国一律 2,200 円 (税抜) で行っています。

※法人の方はご利用できません。※一部離島を除きます。

Information | 自治体・消防関連の方には、PRツールを無料で郵送いたします。

廃消火器リサイクルPRツールのお申し込み方法

消火器リサイクル推進センターのホームページから、下記の手順で注文用紙をダウンロードし、必要事項をご記入の上、ファックスしてください。

- ① トップページ右上にある「自治体・消防の方」メニューをクリック。
- ② 「PRツールのお申し込み」タブをクリック。
- ③ 「注文用紙」をクリック。



PCから

消火器リサイクル窓口

検索

www.ferpc.jp



(一社) 日本消火器工業会



(株) 消火器リサイクル推進センター

〒111-0051 東京都台東区蔵前三丁目15番7号 蔵前酒井ビル2階 電話：03-5829-6773 ファックス：03-5829-6774
(受付時間 9:00~17:00 ただし土日祝日、休日および 12:00~13:00 を除く)

「RECYCLE REPORT」は消火器リサイクル推進センターが発行するニュースレターです。廃消火器のリサイクルに関する情報をお届けしています。

特集

廃消火器はこんな流れでリサイクルされています！

リサイクル工場見学レポート

消火器のほとんどは
粉末消火薬剤を使用

現在生産されている消火器の約9割は、粉末消火器となっています（図1参照）。

粉末消火器は、消火薬剤にリン酸アンモニウムを使用しています。リンは世界各国の様々な産業分野で利用されており、中でも肥料原料としての需要が増大しています。

リン酸アンモニウムの原料であるリン鉱石は地球上の一部の地域でしか採掘できず、その産出量にも限りがあるため、リンを戦略物質として位置づける産出国も増えています。

日本はリン資源のほぼ全てを輸入に頼っています（図2）。消火器は、そのほとんどが使用されず廃棄されますが、この大切な資源を回収してリサイクルするため、日本消火器工業会は、2010年から廃消火器をリサイクルする活動をスタートさせました。

図2：リン鉱石の輸入相手国実績

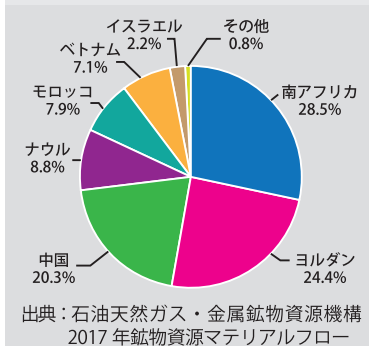
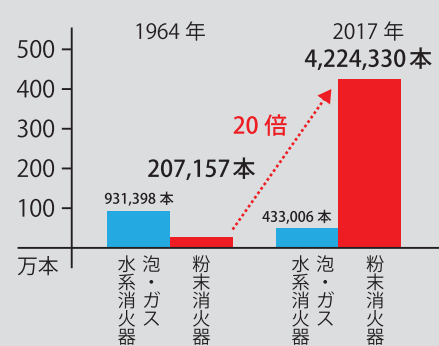


図1：粉末消火器の生産数推移 1964→2017年



粉末消火器が登場したのは今から約50年前（東京オリンピックが開催されたころ）です。これ以前は、窒息消火という考えが主流でしたが、抑制消火という考えでより消火効率の高い粉末消火器が誕生しました。

1964年当時の消火器生産本数は約113万本。そのうちの粉末消火器は約20万本で、総生産数に対する粉末消火器の割合は18%でしたが、現在では生産本数の約9割が粉末消火器となっています。



④バーコード読み取り



③薬剤の抜き取り

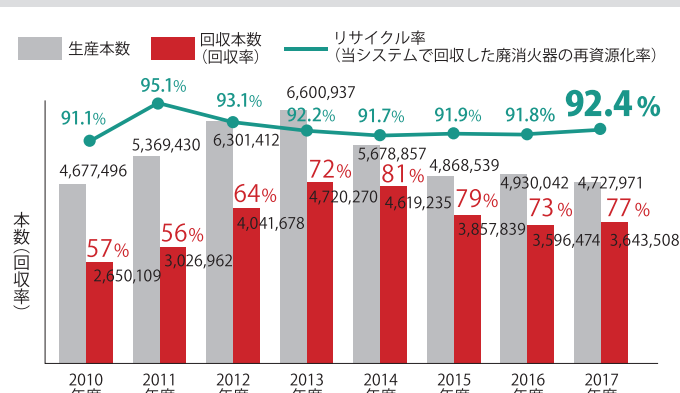


②解体



①仕分け・保管

2017年度 消火器リサイクルシステム「年次報告」



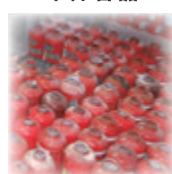
廃消火器の処理本数・回収率（生産本数比）・リサイクル率の推移

粉末消火薬剤



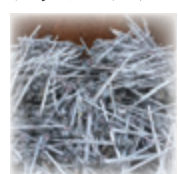
リサイクル率
96.8%

本体容器



リサイクル率
100%

アッセンブリー



リサイクル率
94.3%

貴重な資源であるリンを
96%以上をリサイクル

リンは貴重な資源です。廃消火器リサイクルシステムでは、粉末消火器で使用されたリンの96%以上をリサイクルしています。リンのリサイクル内訳は、消火薬剤が約88%です。薬剤検査に不合格となったリンは肥料として8・6%がリサイクルされています。

2017年度における、廃消

回収された廃消火器は、全国18カ所にある中間処理施設でリサイクルされます。処理施設に運ばれた廃消火器は本体容器、蓋・導入管などのアッセンブリーの種別で解体作業を行い、その後本体容器から消火薬剤の抜き取り作業に進みます。中間処理施設では消火薬剤の抜き取り作業後にリサイクルシールのバーコードを読み込んで処理が完了します。

リサイクルの種別で分類された材料は、素材ごとに分けて保管されます。本体容器から抜き取った貴重な資源であるリンは、X線回析装置での異物混入検査や粒度分布・分流量有量等を測定した後、適切な状態に整えられ、保管後にリサイクルされます。

バーコードで
処理完了を管理

火器の回収本数は、364万本。リサイクル率は、本体容器100%、蓋・導入管などのアッセンブリー94・3%、消火薬剤は96・8%となっています。消火器リサイクル推進センターのホームページでは回収窓口検索をはじめ、消火器の生産本数と回収本数のほか、回収した消火器のリサイクル率や委託先への法令順守活動などを紹介していますのでぜひご覧ください。



新品消火器の出荷



新品消火器への薬剤充填



リサイクル後に保管された粉末薬剤

